

資料

基本理念

本跡地は、教育を核としながらも、学校の単なる延長ではなく、「教育のための場」とすると同時に「地域のための場」として機能する拠点を目指します。

学校と地域が日常的に交わる環境を整えることで、次世代育成と地域コミュニティの活性化を同時に実現していきます。

基本理念

義務教育学校等と相互に
補完し合いながら、
子どもから高齢者までが
集い、育ち、支え合う地域拠点



目指す将来像

多様な主体が関わり、時間帯や利用目的に応じて柔軟に活用される空間とすることで、持続可能で活力ある地域の中核拠点としての形成を目指します。

将来像①

義務教育学校等の教育活動を補完し、学びの幅を広げる場



学校の学びを屋外や体験活動へと広げ、より実践的で主体的な学習を支える空間にしています。

将来像②

村民の日常的な健康づくりを支える身近な運動・活動の場



子どもから高齢者までが気軽に体を動かし、健康づくりを続けられる身近な公共空間にしています。

将来像③

世代を超えた交流が自然に生まれる開かれた場



学校利用にとどまらず、地域に開かれた空間として多世代が日常的に関わり合える場になっています。

将来像④

地域資源を生かし、郷土への理解と愛着を育み、村外の人に魅力を伝え地域の持続性を広げる場



自然や文化などの地域資源を活用し、郷土への誇りを育むとともに、村の魅力を内外に発信する拠点にしています。

運営の基本的な考え方

施設運営にあたっては、村、学校、地域住民、関係団体が役割を分担しながら連携し、地域全体で支える体制を構築します。

地域人材やボランティアの参画を得て、学校教育と社会教育が融合する地域参加型の取り組みを進め持続可能な運営を目指します。



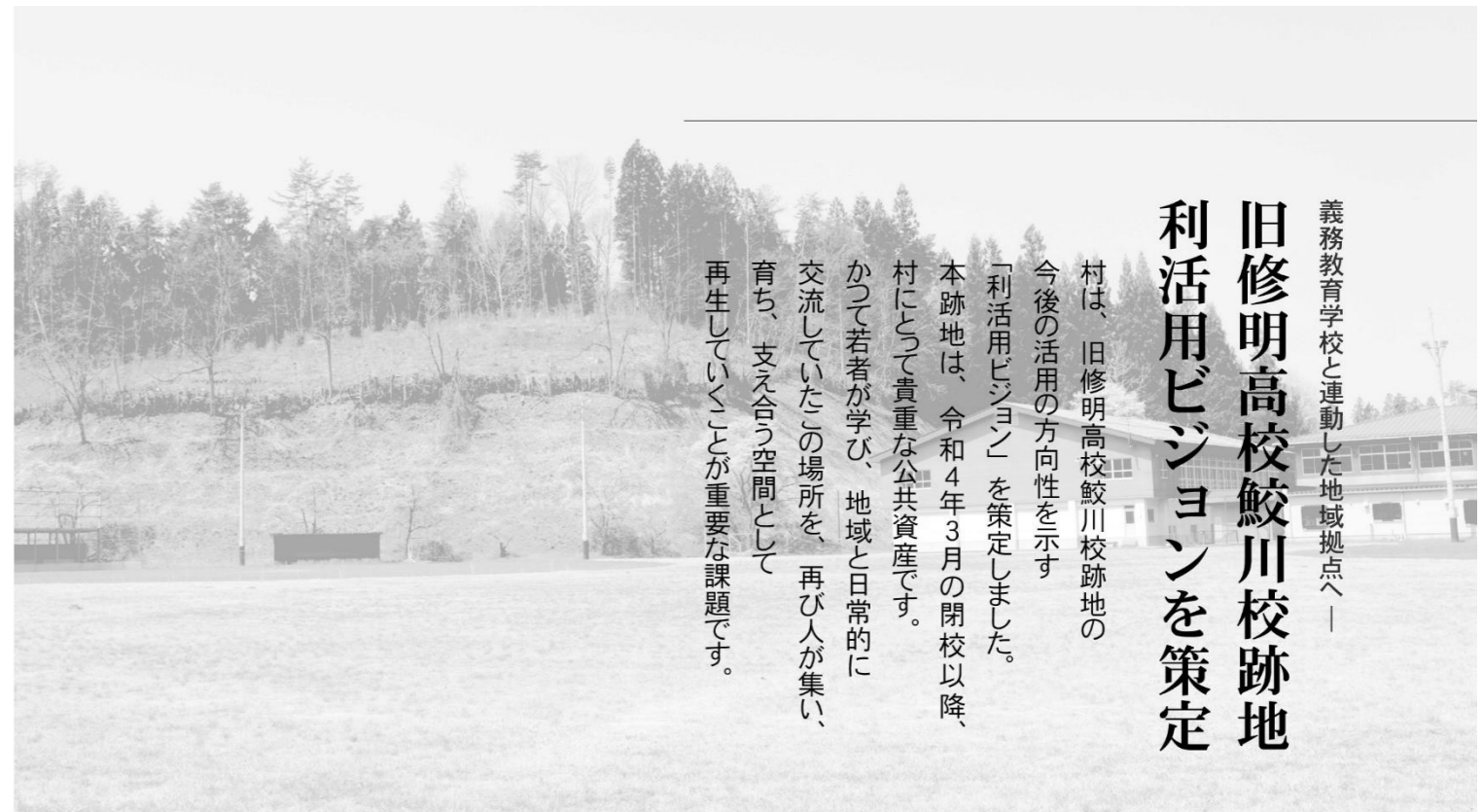
問合せ先

義務教育学校等開設準備室

☎ 4 9 - 3 1 5 1

✉ kyouiku@vill.samegawa.fukushima.jp

▶ ビジョン全文は村ホームページで公開しています。



義務教育学校と連動した地域拠点へ

旧修明高校鮫川校跡地 利活用ビジョンを策定

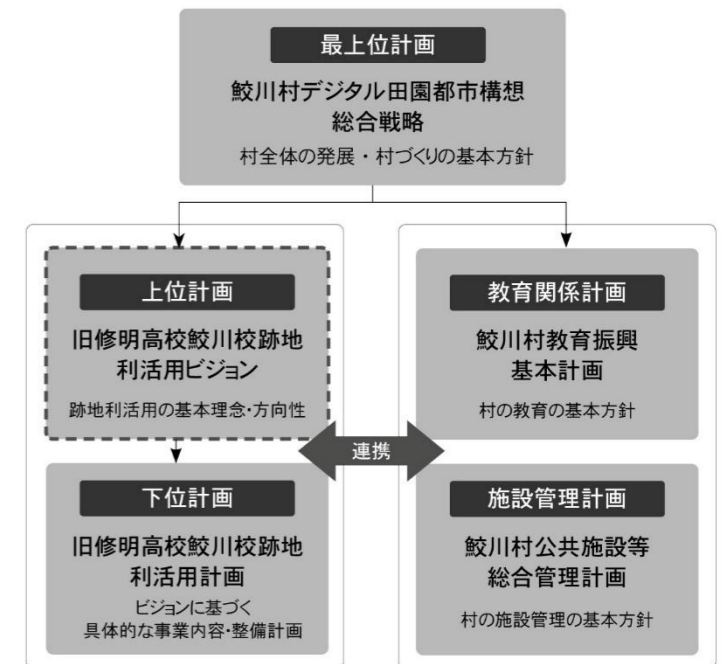
村は、旧修明高校鮫川校跡地の今後の活用の方向性を示す「利活用ビジョン」を策定しました。本跡地は、令和4年3月の閉校以降、村にとって貴重な公共資産です。かつて若者が学び、地域と日常的に交流していたこの場所を、再び人が集い、育ち、支え合う空間として再生していくことが重要な課題です。

本ビジョンと各種計画の関係

本ビジョンは、旧修明高校鮫川校跡地（以下、鮫川校跡地という。）の利活用に関する基本的な理念および方向性を示すものです。

本村の最上位計画である「第3期鮫川村デジタル田園都市構想総合戦略」では、人口減少社会に対応した持続可能な地域づくりを推進することが基本目標として掲げられています。これらの目標は教育・福祉・健康・産業・地域コミュニティなど複数分野にまたがる横断的な取り組みによって実現されるものです。

鮫川校跡地の利活用は、総合戦略の基本目標を具体化する重要な取り組みの一つとして位置づけられます。



跡地の特性

本跡地は、およそ18,000平方メートルのまとまりある土地で、標高447メートルの高台に位置し、周囲を森林に囲まれた静穏な環境を有しています。また、義務教育学校等を整備する青少年広場から約500メートル圏内にあり、徒歩で往来可能な距離にあります。

このため、本跡地の活用にあたっては義務教育学校等と役割分担を図りながら一体的に構想することで、その価値を最大化していきます。

